

# 平和って、何？

～あげな小学校の手づくりの平和集会～

嘉納 英明

(具志川市立あげな小学校教諭)

## 1. 慰霊の日と平和学習

6月23日は、慰霊の日である。戦没者を供養する、沖縄にとっては、1年のうちで最も長く重い日である。激戦地であった糸満市摩文仁の平和祈念公園では、毎年、「沖縄戦全戦没者追悼式」が開催されるし、各地でも追悼式が行なわれる。この日、沖縄の公立学校は、全て休校となる。

6月に入ると、学校では、“平和月間”と称して、図書館司書が中心となって沖縄戦関係の写真や資料コーナーを校内に設けたり、教師の特設授業が実践されたりする。学校によっては、教師の書き下ろしの脚本をもとに学校劇に取り組んでみたり、戦争体験者の講演を企画したりするなど、学校における取り組みは様々である。例えば、今年、新聞紙上で紹介されたものとしては、具志川中学校（具志川市）の「1000人で語り継ぐ平和の炎」や長田小学校（宜野湾市）の全校児童による平和合唱の取り組みがあった（「琉球新報」6月24日）。具志川中の実践は、戦争体験者の証言、生徒が作った詩「島は知っている」の平和群読団による朗読を織り込んだ、教師と生徒の1000人で舞台発表するものであった。長田小の実践は、6年生を中心に劇「ゆっかぬひい」を演じ、全校児童が平和合唱したものであった。

学校における平和教育は、マンネリ化しているとか、沖縄戦の悲劇を強調するトーンで実践されているなどの内容や方法をめぐる問題点がこれまでも指摘されてきた。しかしながら、平和教育の実践的なスタイルは少しずつ形を変えながら、平和のメッセージを発信し続けてきたことを正当に評価すべきであると思う。

今年も慰霊の日は巡ってきた。これまでの先進的な実践に学びながら、私の勤務校では、どのような平和のメッセージが発信できるのか、と考えた。最終的には、全児童と教職員参加型の平和集会を企画し、学校全体の取り組みの中で平和について考える機会を設定した。

## 2. あげな小・平和集会の企画と準備

5月末から始まった平和月間の取り組みとして、本校の司書は、図書室で沖縄戦の特設展示を始め、道徳部からは、戦争に関するVTR（「ほたるの墓」「戦場ぬ童」など）の提供を行なった。一方、校務分掌上、社会、国語、道徳、図書、TT加配を担当する教師は、「平和集会実行委員会」なるものを結成した。私から提案した平和集会の「案」（平和って、何？）を実行委員会で検討後、これを職員朝会で提案した。

平和集会のねらいは、①沖縄戦の実相を、沖縄戦を題材とした紙芝居や、平和の詩の群読などを通して追体験し、平和の意味や生命尊重について考える機会にしたいこと、

②「平和集会」を機会にして、思いやりの心や寛容の心のあり方について考え、学校生活を見つめ直すきっかけにしたいこと、③全職員・児童参加型の「平和集会」を創造することにより、連帯と共同意識の高まりをめざしたいこと、以上の3点であった。下に掲げる「資料」は、職員に提案した平和集会の「案」である。

平和集会実行委員会  
集会のテーマ

## 平和って、何？（案）

### 1. ねらい

- ①沖繩戦の実相を、沖繩戦を題材とした紙芝居、祖父母からの聞き取り、群読や詩の朗読等を通して、追体験し、平和の意味や生命尊重、個人の尊厳について考えることができる。
- ②「平和集会」を機会にして、思いやりの心や寛容の心のあり方について考え、学校生活を見つめ直すことができる。
- ③全職員・児童参加型の「平和集会」を創造することにより、連帯と共同意識の高まりをめざす。

### 2. 期 日

6月22日（火） 1時間目 （於.体育館）

### 3. 集会のプログラムと諸準備

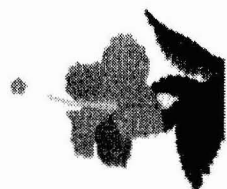
司会：集会委員会

- ①はじめの言葉 …………… 集会委員会
- ②沖繩に戦争があった …………… 児童会役員
- ③大型紙芝居 …………… 職員
- ④おじいちゃん、おばあちゃんと戦争（作文朗読）…………… 1～3年児童（世話：平良）
- ⑤群読「我した島沖繩」 …………… 4～6年の児童
- ⑥歌「月桃」「さとうきび畑」… 全児童
- ⑦校長先生のお話 …………… 校長
- ⑧黙祷
- ⑨終わりの言葉 …………… 集会委員会

- 諸準備
- |            |                                   |
|------------|-----------------------------------|
| 1～2年の児童    | 千羽鶴折り（1人当たり5枚程度）と舞台装飾             |
| 3年の児童      | 平和をイメージした壁画制作と舞台装飾                |
| 4年の児童      | 大型文字「あげな小 平和集会」の制作と掲示             |
| 5年の児童      | 詩「我した島沖繩」の作成                      |
| 6年の児童      | 歌「月桃」「さとうきび畑」の歌詞作成                |
| 図書委員会      | 大型紙芝居の準備                          |
| 放送委員会      | 放送準備、音楽準備                         |
| 給食委員会      | 大型プログラム書き                         |
| 音楽部        | 各学級へテープと歌詞の配布、効果音準備               |
| ビデオ撮影、暗幕設置 | 仲村渠（放送委員会）、仲地（体育委員会）<br>知念（栽培委員会） |
| 写真撮影・現像    | 幸喜、知念                             |
| 写真掲示       | 生活委員会、保健委員会                       |
| 実践資料の収集・記録 | 山城、友寄、嘉納                          |
| 資料の印刷      | 具志堅、玉里、座間味、譜久里                    |
| 製本業者との連絡   | 嘉納                                |

☆ 集会委員のシナリオ、児童会役員の話、児童作文、校長あいさつ等、全ての原稿を22日（火）に集めます（山城）。

☆ 平和月間終了後、実践の足跡をまとめ、製本化する。次年度の資料とする。



平和集会の「案」を提案後、細かい作業内容や日程については、実行委員がその都度、教師間の調整にあたることになった。各学年や各種委員会は、早速、割り当てられた諸準備を進めた。司会進行役の集会委員は、放課後や休憩時間を使って、担当の教師と一緒に集会のシナリオを作り始め、児童会役員は、沖縄戦の概要を図書室で調べ、これをあいさつ文としてまとめていった。図書委員は、職員の語りに合わせて、『平和紙芝居 私たちの声を聞いて』（汐文社刊）の一部（朗読劇「白旗をかかげて」）をTPシートを活用してのスクリーン投影の練習を始めた。図書委員と教師集団のセリフ合わせの練習は、平和集会の前日、30分しかできなかった。1回だけの短時間のリハーサルで、明日の本番を迎えなければならなかったのである。

一方、1年生から3年生までの児童は、沖縄に戦争があったことを祖父母から聞き取り、作文にまとめていく学習活動を担任の教師と進めていた。また、1～2年生の児童は、家庭で父母と鶴を折り、これを千羽鶴としてつなぎ合わせ、体育館の舞台を飾っていた。4年生は、体育館舞台掲示用の大型文字をちぎり絵で表し（「あげな小 平和集会」）、5年生は、群読用の詩を作成、6年生は、舞台掲示用の歌詞「月桃」と「さとうきび畑」を作成していた。

### 3. 「平和って、何？」の実施

以上の全校的な取り組みによって、あげな小学校の平和集会「平和って、何？」は、慰霊の日の前日に実施した。集会は、前述の「案」のプログラムに沿って進行していった。蒸し暑い体育館の中で、1時間の集会が持続できるかどうか、心配であったが、児童は、朗読劇を見たり、歌を歌ったり、詩を朗読したりする中で、確実に戦争と平和について考えを深めていった。一例として、下に児童の作文を掲げたい。これは、児童による作文朗読のひとつである。この作文朗読は、戦争を体験した自分の祖父母（肉親）から孫へ体験を語ってもらうことで、戦争の悲惨さと命の大切さを考えてもらう目的で試みられたものである。

せんそうのはなしをきいたよ

ぼくのおばあちゃんは、かな川けんのよこはまのぐんじゅ工じょうで、せんそうにつかうバクダンを作らされていたそうです。くうしゅうのときは、ごうににげこんだけれど、ものすごい音で、こわかったそうです。

おじいちゃんは、長さきの工じょうで、はたらいていました。そこでへいたいになって、ほうくうごうをほるしごとをしたそうです。

食べものもなく、いつもおなかをすかしていたそうです。また、食べものがないので、びょうきになってしんでいく人もたくさんいたそうです。

とてもかなしかったです。ぼくも、せんそうは、ないほうがいいとおもいます。



おじいちゃん、おばあちゃんから、戦争の話を聞いたよ。

後半のプログラムの「校長先生のお話」は、学校長の友人の父親が残した言葉の紹介であった。それは、召集入隊する父親が、家族との最後の夜、家族に残した言葉を切々と語るものであった。「この戦争は、長くは続かない。しばらくの間の別れだから、疎開先で元気で4人の子どもたちを育ててくれ。」「戦争が終わり、世の中がおちついてきたら、4人の子のうち、ひとりでもよその国の人たちと話ができるまで勉強して、戦争の否定と、他国との友好に役立つ人間になってほしい。この気持ちは紙に書き残したいが、今の時代では公にはできないので、お前（妻）の胸の中にとめておき、子どもたちが大きくなった頃、『父親の最後の言葉だったよ』と話してやりなさい。」

学校長の講話は、シンと静まりかえった体育館の中で語られた。戦死者が残した言葉に児童は驚き、多くの人を巻き込んだ戦争がこの沖縄であったことをあらためて認識したに違いない。平和集会は、この後、参加者全員の黙祷と集会委員の「終わりの言葉」で締めくくられた。

#### 4. 平和集会を終えて

例年、学級や学年任せの特設授業だったが、今年は、全学年の児童の参加と教師の協力により平和集会が実践できた。多忙な学校現場ではあるが、こうした実践の積み重ねは、学校全体の連帯や共同意識を育むうえでも、重要である。平和集会後、実行委員会の教師を中心に実践記録が小冊子として製本化され、次年度の資料として保管できた点も大きな前進であった。また、平和集会についての職員評価（3段階）は、先のねらいの①（平和の意味や生命尊重について考えることができる）については、ポイント2.47、ねらいの

②(学校生活を見つめ直すことができる)については、ポイント2.58、ねらいの③(連帯と共同意識の高まりをめざす)については、2.74の高ポイントであった。これらの評価から、平和集会のねらいは、基本的に達成されたと思われる。

平和集会後の児童の感想からは、戦争の恐ろしさと平和の大切さを強く意識した声が多数寄せられた。また、職員の感想も大方が、今回の平和集会の取り組みについて好意的に受け止め、次年度でも取り組みたい意志をみせている。以下、児童と教師の声を紹介したい(一部)。

#### <児童の感想>

★わたしは、へいわしゅうかいでうたをうたいました。こわかった。でも、おきなわのひとが、しんだらいやだとおもいます。さとうきびばたけをうたってとどくといいなとおもいますよ。へいわしゅうかいでは、こうちょうせんせいが、はなしをしてよかったですよ。(1年男児)

★せんそうは、ぜったいやってはいけなとおもいました。あかちゃんをころしたり、おとしよりをころしたりするから、せんそうは、ぜったいにしてはいけません。こんどせんそうをやったら、すぐ、日本がねらわれ、ぎせいしゃがたくさんでてしまいます。だから、ぜったいにやっては、いけません。(2年男児)

★きょうの1校時に、へいわしゅう会がありました。先生方が「白はたをかかげて」などの大きいかみしばいをしてくれました。せんそうのころ、生きていたひとたちのことを考えると、かなしくてしかたありません。せんそうは、多くの人びとをころしました。とてもひどいです。せんそうはぜったいにいけません。せんそうは、いのちをたいせつにしています。そんなことはぜったいにいけません。(3年女児)

★今日の1時間目に平和集会をしました。ぼくはかみしばいを見て、「戦争がこの時代にあつたら、ここにいるみんな、こんなふうになっていたのかな」と思いました。だから、戦争なんてしたくありません。これからは、せんそうのない時代の始まりにしたいなあ、と思いました。(4年男児)

★私は、平和集会をやって、1～3年生の作文や、げつとうの歌、さとうきび畑の歌を歌ったり、とても心にのこりました。先生たちの紙芝居も演技が上手でした。もくとうをしたとき、なくなった人は、ちゃんと天国にいて、幸せにくらしているといいなあ、と思いました。校長先生の話は、いろいろなことがあつたんだなあ、苦しいこともあつたんだなあ、と思いました。(5年女児)

★平和集会を終えて思ったことは、平和ってどんなにうれしいか、わかりました。考えたことは、「戦争」、この言葉をなくしたい。こんな言葉は、これからは起こしたくない

ということ、みんなに知ってもらいたいということがよくわかった。私も、そしてみんなも、このことに賛成だと思った。逆に、「平和」、この言葉。これから、ずーと、ずーと続けていきたい。それと、いいことだなあと思ったのが、「命どう宝」という言葉である。この言葉は、すっごくいいと思う。だからこそ、命はそまつにたくない。そう、心からわかった。これは、世界中、みんなに知ってもらいたい言葉だと私は、今日、わかった。とってもよかった集会だった。(6年女児)

### <教師の感想>

○職員、児童がひとつになって取り組むという、良い機会だったと思います。いろいろなプログラムを通して、テーマを深く考えることができたと思います。音楽の時間では、歌詞を読んだ感想や、曲のもつイメージから、作詞・作曲者を含む沖縄戦を体験した人々の願いを考えようと呼びかけて取り組みました。(女性教師)

○各学年、各委員会、職員、それぞれに仕事が分担され、充実した平和集会がもてて良かった。あげな小学校の恒例の平和集会として、毎年、1時間とってやってほしい。これまでは、各学年、各クラスにまかされていたことが多かったが、戦争体験のない教師が1人でやるには、限界がある。(女性教師)

○久しぶりに学校全体がひとつのテーマのもとに活動することができ、大変感動致しました。自分たちで何かを創り出す、そのために、自分のやるべきことは何かを気づくいい機会になったと思う。来年は、気づいたことを大切に、考え、行動しようとするテーマで取り組みたい。もちろん、総合学習の一環としてきちんとした時間の位置づけ、日程、役割等の話し合いを詰めたい。(女性教師)

○まず一言、とにかく素晴らしい平和集会でありました。感動しました。平和について、毎年、諸々の所で、集会や行進、マスコミ報道が行なわれていますが、個人にとっては、大人も子どもも含めて、身近なものとして感じ得ることができなかつたのが正直な気持ちであります。平和ボケというか、風化されつつある思考、感情と言いかえることもできるかと思えます。そのような中、あげな小で平和集会がもてたことは、意義深いことでもあります。追体験や戦争体験者の話も織り込みながら、さらに、次年度も取り組んでほしいというのが本音であります。平和集会に参加できて本当に感謝しています。  
(男性教師)

さて、今回の平和集会の企画から実践までを振り返れば、次の点で課題が残り、次年度の検討材料である。

- ① 平和集会の内容や方法に関して、職員の十分な検討ができなかつた。平和集会実行委員会内での検討も不十分であった。職員と児童の声を直接反映した内容をどのように創り上げ実践していくのか、課題である。

- ② 今回の平和集会は、年間の行事計画の中に位置づけられたものではなかった。次年度は、年間計画に位置づけながら実践したいものである。
- ③ 今回の集会は、沖縄戦をテーマにした内容であったが、平和という概念を子どもの生活レベルまで引き付けることも大切なのではないかと考えた。つまり、いじめなどの子どもの世界で起こっている切実な問題を「平和」というキーワードに関連させて実践することも、今後、検討すべきである。